



上賀茂神社でのライブのイメージ
(土佐尚子京都大教授提供)

トランベッターとメディアアーティスト



21、22日上賀茂神社 象形文字投影、演奏

京都市北区の上賀茂神社で二十一、二十二の両日午後五時から、トランベッターの近藤等則(としのり)さん(写真左)と、メディアアーティスト

21世紀の音楽求めコラボ

近藤さんが、都市文明から解放された二十一世紀の音楽を求めて続けている「地球を吹く」の二環。テーマとする「自然、精神、技術が三位一体になった表現」のために、「深々として神の気を感じる」という上賀茂神社の本殿前で行う。

土佐さんが、おはらいや雷のイメージを象形文字や古代の壁画を使って

表現した映像を社殿の幕や壁、石段に投影し、映像の中で近藤さんが演奏する。ライブに先立ち、葵祭を前に神霊を迎える秘儀である御阿礼(みあれ)神事が行われ、ライブ入場者に参列してもらう。

近藤さんは「日本では神がすなわち自然で、上賀茂神社は古くからの日本人の心を表している」とライブへの期待を語った。

各日百人。前売り五千円(室内)と二千円(屋外)。申し込みは土佐研究室ホームページ(http://www.tosa-media.kyoto-u.ac.jp/kamisamo/)で。